

## 平成 28 年度 財団せせらぎ 助成金使用報告書

所属	国立精神・神経医療研究センター	職名	外来研究員	助成金額	300,000 円
氏名	川島 義高		印		
研究や活動等のテーマ（申請書に記入した内容を記入すること。）					
欧州で実施された学校を起点とした有効な自殺予防プログラムの日本への導入可能性の検討					
助成金の使用実績の概要（日本語で記入すること。図・グラフ等の記載は必須ではない。）					
<p><b>背景：</b>スウェーデンのカロリンスカ大学において、生徒の自殺予防を目的とした Youth Aware of Mental Health Program（通称 YAM）が開発された。この YAM とは、メンタルヘルスについて、生徒同士の理解とサポートを促すための教育プログラムである。カロリンスカ大学は、YAM の有効性を検証するために多国間共同の大規模ランダム化比較試験（通称 SEYLE study）を実施し、生徒の自殺企図回数、自殺念慮を減少させる効果を報告している。そして、YAM を実施する人材を育成するためのインストラクター講習が開催され、オーストラリアなどへの普及が進められている。日本でも、有効性が実証された YAM の導入を検討する意義はあると考えられる。しかし、現状では、YAM の日本での導入に関する報告はなく、手つかずの状況である。そこで、本研究では、(1)YAM の適応や効果に関する情報を整理する（研究 1）、(2)日本での YAM 導入に必要な要因を明らかにする（研究 2）を目的とした。</p> <p><b>研究 1：YAM の適応や効果に関する情報の整理</b></p> <p>SEYLE study に関連する出版物（論文、会議録、報告書）を電子データベース（PubMed、PsycINFO、Web of Science）を用いて検索した。その結果、SEYLE study に関連する出版物 47 報中、YAM の自殺企図回数および自殺念慮への効果を示した論文は Wasserman D et al (Lancet, 2015) の主論文 1 報のみであった。主論文では、欧州 10 ヶ国 168 校に在籍する生徒 11,110 名（平均年齢 14.9±0.8 歳）を対象に行われたランダム化比較試験によって、YAM は、対照群（メンタルヘルス教育促進を目的としたポスターを教室に掲示）と比較して、12 ヶ月後の自殺企図回数、自殺念慮を有意に減少させることが示されていた。その他の出版物はプロトコル論文、全研究対象者データを用いた横断研究などであり、生徒の自殺念慮と援助希求行動、インターネット依存などとの関連が検討されていた。さらに、本研究では、YAM の均てん化に関する最新の知見を収集するために、国際自殺予防学会（マレーシア）、世界精神医学会 Thematic Congress（オーストラリア）に参加し、児童・思春期や学生の自殺予防研究に携わる研究者と情報交換を行った。その結果、YAM のインストラクター講習を受講した者は日本を含めて各国にいたることが分かったが、各国の YAM の均てん化は、まだ進捗していないようであった。なお、オーストラリアでは、学校を起点とした自殺予防として、safeTALK suicide education program の普及が進められているという情報が得られた。</p> <p><b>研究 2：日本での YMA 導入に必要な要因の検討</b></p> <p>SEYLE study の中心的な研究者のひとりであり、各国で YAM インストラクター講習を開催しているカロリンスカ大学の Camilla Wasserman 博士と Vladimir Carli 博士から、YAM インストラクター講習の開催状況、日本での講習開催可能性、日本での YAM 導入におけるサポート体制などについての情報を得た。また、YAM インストラクター講習を受講した日本人研究者とコンタクトを取り、YAM インストラクター講習の内容、YAM のプログラム内容に関する情報を収集し、日本での導入可能性についても合わせて検討した。その結果、日本での YAM 導入に必要な要因としては、1)日本での YAM 導入に伴う YAM 運営機関との契約、2)日本での YAM インストラクター講習開催、3)日本人 YAM インストラクターの養成、4)YAM プログラムの日本語翻訳、5)YAM を導入可能な中学校あるいは高校の選定、6)学校教員および生徒家族との合意形成、7)YAM の質を担保するための支援体制構築、8)YAM の導入に必要な資金確保などが挙げられた。また、本研究では、日本で、YAM などの自殺予防プログラムのエッセンスを集約して開発された、大学生を対象にした自殺予防プログラムを実施している研究者とコンタクトを取り、そのプログラムの内容や普及状況について情報共有を図った。</p> <p>本研究により、現時点での各国の YAM の普及状況が確認され、さらに日本での導入に必要な要因を抽出できた。今後、日本において YAM 導入を進める際に、本研究で得られた知見が参照されることを期待している。</p>					
助成金の使用金額及び使途					
<ul style="list-style-type: none"> <li>国内旅費（自殺予防プログラム見学、情報収集のための施設訪問等）：13,985 円</li> <li>学会参加費（The World Psychiatric Association Thematic Congress 2018, Melbourne）：203,479 円</li> <li>書籍購入費：15,191 円</li> <li>消耗品（プリンター用トナーカートリッジ、データ記録媒体、文具など）：67,345 円</li> </ul>					
助成金を使用した成果に関する発表（インターネットに公表されている場合は URL を記載すること。）					
本研究で得られた成果は、今後、日本自殺予防学会総会にて発表する予定である。					